



発行日 \*\*\*2011年6月1日 e-mail: akutagawa\_dayori@yahoo.co.jp

皆様からの投稿をお待ちしております

http://www.justmystage.com/home/akutagawa/

着物から服を仕立てます

高槻市芥川町2-14-3

Tel.072-681-8870

\*\*\*\*\*

一部50円です

\*\*\*\*\*



## 流れを読めなかった鯉

大雨を何日も降らせた台風がさった数日後、爽やかな朝の空気の中、洪水の引いた川の土手を歩いていると、河原に残された水溜りの水面が時々波打っているのが見えた。近づいてよく見ると大きな魚が幾匹も見えた。土手の石垣と河原の間に出来た草むらの窪みに溜まった四坪ばかりの水溜りが出来ていて、そこに丸々と肥えた体長が70センチもありそうな鯉や鮒と思える魚影が沢山ひしめくように泳いでいるのだった。深さは大きな鯉の尾ひれが水面から出るぐらい浅く、直ぐに干上がると思えた。

この川は、普段は川幅は狭く水量も少ない川であるが、ひとたび上流で豪雨があると濁流となるので、河川敷は広く堤防も高く造られている。近くの公園の供養塔に刻まれた碑文によれば宝暦13年の台風の時の溺死者は千人とも記されている。その後も度々氾濫するので分流の川を改修し、その結果、近年では大きな被害は起きてはいない。

翌朝も早く起きて見に行ったら昨日と変わらず鯉たちは泳いでいた。いたたまれなくなった私は早速家に帰り、大きなゴミ袋を二枚を持ち長靴を履いて引き返した。大きな鯉の背びれを見て頭の先にゴミ袋の入口を広げて一気に追い込む。一匹入ると袋は破れそうになる。こんなに大きく重いとは想像していなかった。大事に抱えて土手を歩いて川の本流まで持っていき放流した。すると、鯉は直ぐには離れず暫くこちらを見てじっとしているが、少しすると泳ぎ去ってしまった。こんな事を幾度も時間が許す限り繰り返した。

大きな鯉は怖いものなしの川の王者である。寿命は20年から70年生きるらしい。川の水がある限り安泰だが、ひとたび洪水が起きて水流を読み間違えば干乾びてしまう。あっけない最後だ。私が救い上げた鯉はよく肥え元気であったが、この河原の見えないあちこちで多くの魚が死んでいるのだろう。洪水が引く時に上手く本流に戻るのには魚にとっても難しいに違いないが、その一瞬の判断が鯉の生死を分けるのである。洪水は一気に水位を上げ濁流となるので、鯉といえども川岸に身を寄せなければならぬ。が、水が引くのも早い。引き始めたら流されるのを覚悟して急流に飛び込み泳がなければならぬ。そのタイミングは一瞬であって、少しの遅れが水溜りの干乾びた鯉の結果になる。

この鯉に震災後の我々日本の国を重ねてしまった。干上るか本流に戻るかという瀬戸際にいたあの鯉は、急流に飛び込むタイミングを外してしまったのだが、この国は、どうしなければいけないのか。間違わない方向に勇気ある行動で進んで欲しい。(嘉)

先月、十年ぶりに会った先輩の話には考  
えさせられた。彼は、道路などの改修工  
会社の営業を永年つとめ定年を迎えたの  
が、囑託になって今も同じ会社で働いて  
いる。

「先輩は、営業が上手いそうですね。接待  
とかして情報を聞き出すんですか？」

「そんなことは一切しない」

「それじゃ、どうするんですか」

「お前には、関係ない世界やろ」

「前々から聞きたかったんです。聞く機会  
が無くて、もう直ぐリタイアだから良いじ  
やないですか、教えて下さいよ」

「まあ、飲めよ。あのな、しもやん、僕は  
お前も知っている通り、証券会社から建設  
業界に入ったから全てが解からず苦労した  
んや、それで社内の後輩達だけでなく、周  
りの他社の新人たち、もちろん競争相手  
であつても親切に自分の知っていることは全  
て、ずーと今に至るまで教えてきた。

そんな事を続けていると、自然と教えた  
人たちが、たまに電話かけてきて『こんな  
計画がありますよ』と情報をくれるんだよ。  
大勢と関係したから、結構な件数になる」  
「そうなんです、何か魔法のような手段  
があるのかと思ってました。周りで困って  
いる人があれば、損得を度外視して親切に  
指導し続けた結果なのか」妙に納得。

梵店主

キスタンの国の国旗を掲げるのは当然であつて、次に日本の国旗や山岳会の母体である大学の校旗をまとめてピッケルにくくり付けて隊員と共に写すのである。

しかし、由べえは日本の日の丸を忘れてきたと言つたが問題はない。パキスタン国旗と校旗があれば十分だ。

ザックに登はん具やザイル・非常装備・ロープを詰め込むとやはり重い。由べえも同じようにザックを担ぐ。彼がトツプを行くのでハーケンなどは多く持つてテントを出発した。

昨日、隊長と山猿がルート工作してヤバイ箇所にはロープを張つてくれてるはずだから、ザイルを使わずに登る。5,700呎のテントから直ぐにナイフリッジになつた岩峰群を巻きながら進む。周りの岩は誰も触つていないから、少し触れただけで崩れ落ちる。日本の岩場だと殆どのルートは、登はん者によつて浮石などが落とされて少なくなつてはいるが、未踏の岩場は浮石だらけで、一抱えもあるような岩が簡単に動くから慎重に触らないといけな

い。空気が薄く息が苦しいから、なかなか早く登れない。高山病には水を飲む事が重要なのだが、雪から作るために多くは出来ないし、重いから少量にしたいが、テントに帰幕出来ない時の為

に必要だから、行動の時に飲む紅茶とは別に最低二リットルの水を携行する。この重さがこたえる。3日前に登つた時は、二時間もかかつた、5,900呎地点へは意外と早く着いた。二度目なので身体の高高度順化ができてるのである。そこからは、よっちゃんと由べえにとつては初めての高度になるので注意しなければならぬ。幸い昨日、隊長たちがルート工作してくれてるはずだから、そのルートを見失わないように進む。

よっちゃんが登れなかつた岩壁を巻くように下部のルンゼに下がり、その急峻なルンゼを直登するようにロープが張られていた。よっちゃんは、滑つたら止まりそうに無い凹角の狭いルンゼを見下ろして恐怖を感じた。日陰になつた箇所には氷が張り付いている。

由べえが、「えらいとこに、ルートをつけましたね。落石の巢で、氷が溶けたら危なくてたまりませんが、他にルートがみつからないから、行きましょか。しっかりザイルで確保お願いしますよ」と言いながら、アイゼンのヒモを点検してルンゼを下がりはじめた。

### 義兄とその家族 (17)

風薫る5月の連休。義兄と姉は可愛い盛りのおチビの孫たちを連れて、大阪市内に買物にやつて来た。5月生まれの名もメイちゃん。5歳、弟の颯士朗くん1歳半。メイとカタカナで書く外人のようだが、ご本人はいたつて日本的な平たい顔のお嬢で、その弟は「そうしろ」というごたいそうな名前がまったくふさわしくない、ちっこい坊ちゃんである。だが、身内つておかし。よそのお子に比べて、特段可愛いわけでもないでもない、おチビたちが可愛いくて、可愛いくてたまらない。さすがに目鼻立ちは褒められないのだけれど、「メイちゃん」はアゴのラインが可愛いね。「ソウくんはいつもニコニコしてて、性格がいいよね」とメロメロ。

鬼嫁のわが姉も孫にとつては「何でも言うことを聞いてくれる、アキちゃん」だ。

実は、この姉の息子一家、なぜだか知らないが、パパ・ママともお父さん・お母さんとも呼ばせずに、親を名前で呼ばせている。父は「ジユン」、母は「ミネコ」。年端もいらないおチビが「パパ」とか「お母ちゃん」ではなく、「おねえ、ジユン」「ミネコ」などと呼ぶ。祖父(義兄)も名前の呼び捨て。祖母(姉)は呼び捨てとチャン付けの併用。私は短い呼び名なので、チャンが付く。「アツちゃん」。一応、チビたちのおおばさまなのであるが。こっちはそもそもメロメロだから、何と呼ば



れても嬉しく、「ハイハイ」とヘラヘラ返事をしてしまうのだが、教育的見地からどうなんだろうか？

片言のときだけならいざ知らず、上の子が幼稚園に行き出しても名前で呼ぶという習慣は変えていない。

私たちは子どものころ、父は「おとちゃん」で母は「おかあちゃん」だった。とても懐かしい響きがあつていいのだが、あるとき、学校の先生が「小学生にもなって、おとちゃん、おかあちゃんはないやろ。ちゃんとお父さん、お母さんと呼びなさい」と指導し、母親たちにもそう話したので、「学校の先生の言うことは絶対だ」と思っている母が、そのときから呼び方を変えさせた。従順な一家だった。そんな一家の長女なのに、結婚した姉は3歳年下の夫を呼び捨てにし、子どももそれぞれを真似て、「シェイジュン」などと言っていた。お寺の息子なので、「せいじゅん」（もちろん漢字ですが）という名前なのだ。

その姉の息子は、いつのまにか、お父さん、お母さんと呼ぶようになり、あるとき私が「ちっちゃいころは、シェイジュン、シェイジュンと甘えていたのねえ」と言ったら、目を丸くして、「えっ？ 僕、お父さんと呼び捨てにしてたん？」と驚いていた。その本当に覚えていないらしかった。その

とき、なんとなく、甥っ子の声のはしゃいでいたような気がするのだが、まさか自分の子どもができたとき、名前で呼ばせるとは思わなかった。

海外では、たまにあるようだが、甥は海外で生活したことなど一度もない。大学生のとき、私がハワイへ連れて行ってあげたつきりだ（えっへん！ 気前のよい叔母さんである。もつとも、弟には「苦節十年働いて、やっどハワイ」とバカにされたのだが。その弟もなぜか、ハワイについてきて、その旅行代金は私が払った。苦節十年以上働いたお金で）。

それはともあれ、姉一家がちよつと変わっている、というのはその一事をとつても、わかっていただけではないだろうか。

常識派の母は「子どもに親の名前を呼び捨てにさせるなんて」と眉をひそめているが、トラブル回避派なので、面と向かつては言わない。思えば、うちの母もストレスのたまる人生だ。

ともあれ、五月生まれのメイちゃんのお誕生日プレゼントと、子どもの日のプレゼントを颯クンに買うという目的で、4人で市内に出かけてきた。これが、実は姉のお気に入りメンバーだ。夫と孫二人、そして妹。お気付きだと思いが、息子夫婦が入っていない。

姉は言う。「だって、イヤヤねん。あの二人がおつたら、子どもたちが弾けへんねんもん」。

親は、どうせそのときだけで大して遊びもしないようなオモチャを買われるより、本や服など必要な生活物資を買わせたがる。でも、それだと子どもたちは確かに弾けない。

「この前も、近所のスーパーで、メイちゃんは私にオモチャを買ってもらえると思って、ルンルンしてたのに、ミネコが『傘、買ってもらおか。メイ、傘ほしいって言うてたやん』って、傘を買わされてん。傘は親が買うもんやんか！」とプリプリ怒っていた。

「傘ぐらい買ったつてもええねんデ。でも、イヤなんは、メイちゃんがショボンとしているのを見ることやねん。あの子は利口やから、親に逆らえへんやんか。『うん、メイ、傘ほしい』って言うねん。かわいそうやろ」

だから、姉はお出かけは、極力、息子夫婦を排除する。そして子どもたちが走り回ろうが、大きな声を出そうが、注意しない。「ふだん、抑圧されてんねんから、私らといてるときぐらい、自分を出させてやりたいねん」。

ただ、よく子どもたちを見てみると、ちゃんとのびのび育っている。心細いと「ミネコは？」とママを探す。子どもたちが親に抑圧されているとは思わないが、姉は思いっきり、義兄を抑圧している。

そんなお出かけにも、健康食品系の飲み物を携えてきて、「はい、せいじゅんはこつちな」とタヒボ茶だの何だの、およそ飲んで弾けたくなるようなものではない飲み物を手渡す。そんな義兄に遠慮して、休日ランチにはぜひとも添えたいビールを注文しなかったら、義兄が「僕のは気にせず、ビールを頼み」としきりに言ってくれる。「この生ハムとビールのセットがいいんじゃない？ 生ハムを僕が食べるから」。健康指向の鬼嫁は生ハムなど、家では絶対に食べさせない。

その生ハムに、義兄はなかなか手をつけようとせず、「私にビールを飲ませるように、注文してくれたんやな」と思っていた。でも、そろそろ、お店を出ようというときに、ふと見ると、そのお皿から生ハムが消えていた。鬼嫁に気を遣いつつ、義兄がこつそり、速やかに食べたのだ。傘を買ってもらったメイちゃんをかわいそうというなら、姉よ、義兄さんも十分、かわいそうだぞ。（A O）



## 送り火

具志 清

星宮芳枝の封書が、二日後また届いた。封筒は前回同様のもので、開封すると、またも包みが入っていた。彼女の筆跡で京子の名があった。先ず星宮の手紙を読む。

拝啓 続けて失礼致します。実は、京子さんのお手紙がまだあったのです。私の不注意で先日は気が付きませんでした。お送りします。京子さん、あの前の夜、書かれたようです。

前にも申しましたが、大事なお客さんというのは、建設会社の重役さんですが、とても誠実な人です。お店とは長い付き合いで、お母さんの香織さんへ好意をいだかれ、お店の主人を通じて求婚しておられました。十年も前に奥さんを亡くされておりました。香織さんはその方の誠意は理解されておりましたが、ずっとお一人で頑張つて来られたし、結婚の意志は全くありませんでした。そのことは私がよく知っておりまして。そうこうしている中に香織さんは病死されました。その方は、残された京子さんを不憫に思われました。京子さんの幸せをいつも気にかけておられました。今度のごことは、主人とも話し合いが出来ていて、京子さんには内緒にしていたのですが、

いい青年と引き合わせるためでした。

親切が仇となつてしまいました。その方の取り乱し様は大変なものでした。

僕が悪かった、僕が悪かった、と号泣し、主人と私に頭を下げ続けました。

篤実な人柄を知っておりました私たちも辛ろうございました。

神様や仏様は、どこに居られるのか解りませんが、時には、この世の人々へむごい仕打ちをなさるものですね。

京子さんは不運だった、と私たちは諦めるしかないのでしょうか。

度々失礼いたしました。どうかお元気で過ごして下さい。

高井は、星宮芳枝が里見母子から受けていた信頼の深さを感じた。包みを開いた。

今夜また続きを書きます。これで三晩めです。長々と書くことになりました。どうか、うんざりなさらないで読んで下さいね。

実は、明日、お客様のお供をして遠足です。気が進まないのですが、お店の主人の言い付けなのです。宮仕えは辛いね、と男の方はよく言われますが、全く同感です。なんて言うかと、生意気抜かすな、と叱られそうですね。そのお客様は、お店を長らく御贖員にして頂いております。母も私も大変親切に

してもらいました。「京ちゃん、いいお

婿さん、みつけてやるからね」と言われた時など、「いいのよ、わたし、女一人で生きてゆく事にしていますから」とお返事しました。可愛げのない女、と思われていたかもしれせんね。あら、自分のことより母のことをお話ししたいのでした。

母は、泉さんと京都時代を語り合うのが、酒場暮らしの頃、とても楽しかったそうです。その中で、泉さんは、気にかかるとも話されました。

「安原は、香織さんが好きだったらしいよ」

「え？」と母は小首をかしげました。

「うん、それは僕しか知らない。彼は、北越と香織さんの事は、心から祝福していた。それでも香織さんへ魅かれる想いは強かったようだ。彼も死んでしまったし、香織さんに彼の心情を知ってもらっても良いのではないか、と思う」

「気がつかなかったわ……」

「いい奴だった。新島襄が渴望した『良心之全身ニ充滿シタル丈夫』の典型だった。北越と二人は、どんなことがあっても生きていて欲しかった」

新島襄が同志社を創立した時、ある青年に送った手紙に『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来タランコトヲ』と書き

ました。

その全文が、同志社大学の正門のそば

に『良心碑』として建立されております。

わたしは見たことはないのですが、高井様はよく御存知のことと思えます。

安原さんたち、当時の同志社の学生さんたちは、朝夕仰ぎ見た校祖の言葉を胸に刻んで戦地へ向かったのでしょうか。

母は、安原さんの端正な風貌をしのび、懐かしくもまた切なくもなりました。わたしは、母の、思い出話を聞く度に、母は素敵な青年たちに囲まれていたんだな、と思い、羨ましくなりました。

明日は気乗りがしないのですが、お仕事の中では、行って参ります。

高井様が東京にお住まいで、誘つて下さつたら、わたし喜び勇んでお伴したでしょうね、そんなこと言つては奥様に悪いかしら、あら、お家のことはまだお聞きしてなかったですね、きつと、やさしくてお美しい奥様がいらつしやるでしょうね。

京子の文章はここで終わっている。手紙の結びの文がない。また明日書こう、と思つて、ペンを置いたのだろうか。

高井は、その夕、デミアンへ行つた。京子への憐憫の情を語れるのは、佐藤久美しかない。



店は開けたばかりだった。一年程前からこのバーで働いている若い女二人はまだ来てない。久美が一人、カウンターの中で支度中だった。

「まあ、タカさん、こんなに早く素面で珍しいわね、どうしたの？」

高井は腰掛けると直ぐに封筒を久美に渡した。久美は高井の飲み物を整えてから、便箋を取り出した。

「星宮芳枝さんからまた来たの、あら、京子さんのも？」

高井は、久美が読む間グラスを傾けた。

「京子さんが三晩もかけて書いたお手紙なのね、タカさんに、もつともつと御両親の事など知ってほしいことがあったのでしようね、痛ましい思いがするわ、お誘いした人は善良な方のようにだし、京子さんの幸福を願うことだったの、その方からお気の毒ね。」

久美が、一人言のように話している間、高井は水割りを飲み重ねた。その横顔を一瞥して久美は続けた。

「京子さん、運が悪かったとしか言い様がないわね、一度もお会いしたことはないけど、ずいぶん親しい人を失ったような気がするわ。」

女二人が出勤してきた。高井へ明るい声で挨拶し、奥の扉の内へ入った。やがて青年三人連れのお客が来た。高井

とも顔なじみで、それぞれに会釈を交し、高井の数脚奥の方へ掛けた。久美がそこへ移動し応対した。着替えた女達が出てきてそれに加わり賑やかになつた。暫く交歓していた久美が高井の所へ戻ってきた。それからは話題は変えた。青年や女達とも談笑した。

客が増してきた。高井は頃あいを見て椅子から立った。久美がドアの外まで送って出た。

「どこかで飲み直すの？」  
「いや、真つ直ぐ帰る」

「いつか、一緒に飲みに行きたいわね」  
「そうだな、じゃ、失敬」

「お気をつけて」

高井は、ひと月ほど経ってから、星宮芳枝への返書を投函した。

謹啓 御書簡二通拝読致しました。直ぐに御返事すべきところを、遅くなり失礼致しました。信じられない思いでした。どのように書いていいの、かと迷っている中に一カ月も過ぎてしまいました。最初、これは、星宮さんには失礼ですが、これは、悪戯ではないか、と思つたのです。しかし幾度も読み返して、この厳肅な事実を認めざるを得ない諦めの心境に落ち入りました。

京都は、八月十六日、大文字の送り



どうかよろしく御了解願います。この度はいろいろと御気遣い頂き、有り難うございました。厚く御礼申し上げます。敬白

拝啓 お手紙ありがとうございました。高井様にはご迷惑おかけして申しわけございません。御誠意は十分に存じ上げております。勝手なお願いをした私の方が間違っております。京子さんとは、お母さんに連れられて上京されて以来のお付き合いです。お母さんは私の先輩です。ずっとお世話になつておりました。高井様がおっしゃるように、私が大事にお守りすべきです。

大阪から京都へ移り住んで十数年になる小生は、昨夏までは、大方の親光客同様、篤信な感情は薄く、夏の風物詩として眺めていましたが、この夏は、感慨も一人でした。

京子さんと御両親が書き残されたものを、小生が保管することの申し出についてですが、これは御辞退した方が良かったと存じます。京子さんとは、偶然に一度だけお会いした小生よりは、永年、里見さん母子と親しくされた里宮さんのお手元に置かれた方が最善ではないでしょうか。そうすることが故人へのなよりの供養かと信じます。

それからご報告申し上げる事がございます。お店の主人が、里見香織さんの本籍地の村役場へお便りを出したのですが、返事がありました。飯島新蔵さんという方のお世話で、お二人の御遺骨を集落のお寺へ納めて下さることになりました。その方は病氣療養中なので、御息が近々こちらへ来られることになりました。

なお、そのお寺には香織さんの亡き御両親も納骨されております。御両親は京子さんが中学一、二年の頃、相次いで亡くなられ、その折、香織さんは帰郷されました。

香織さんも、京子さんも、懐かしいふるさとへお帰りになり、安らかに、とわの眠りへつかれます。

高井様、どうかご安心下さい。より一層の御健康をお祈り申し上げます。 敬白

敬白

## 原発は悪魔だ！

・ゴマメの激しい歯ぎしり

くナメるなよ、東電 その2

原発絡みの情報は日々、変わっていくので、いま書いた原稿が半月後に「芥川だより」が発行されるころには、「えっ、それはもうすんだことでしょ」と言われかねない。

たとえば、東電の役員報酬、一〇%カットという報道に私は怒り狂っていた。いくら何でもナメとんのか！と思っていたら、今日のニュースでは役員報酬は五〇%カットします、と変わっていた。世論が許さなかったからだ。そりゃ、そうでしょう。しかし、最初に一〇%という数字を出してくる、その神経が、ゴマメといえども私は許せん！！

前日も書いたことだけれど、福島第一原発の事故は津波が原因ではない。東電の見通しの甘さ、いい加減さが原因の人災だ。原発をつくること自体は国策であったかもしれないが、こんなひどい事態になったのは、ひとえに東電の責任だ。

事故後の対応も信じられないくらい鈍い（現場で命を張って作業をしてく

れている人たちは別だ）。それなのに、い

まだに自分たちが犯罪者だと思っていない。

だから、おめおめと「一〇%の役員報酬カットで十分でしょう」と思っている。

バカか！役員報酬をいま、この時期に一〇

円でももらえるところがおかしいだろうが。役員報酬もボーナスも一〇

0%カットが当たり前だ。

ほんとは、それだけでは足りない。今までの分も返済し、福島の人々の補償に充てるぐらいの覚悟をしろ、と思っているの

に、今日現在役員報酬50%カットで国民

も納得しているみたいだ。

私の性格が特別に悪いのかもしれない

けど、みんな東電に優しすぎないか。

「頑張れ、東電」というスローガンを見

たけれど、どこを押せば、そんな言葉が出てくるんだろう。「頑張れ、福島第一原発

で事故処理にあたっている東電のわずかな社員の方、大多数を占めているであろう

下請けの下請けの皆さん」というスローガンならわかるけど、それが長すぎるからと

縮めてしまうと、何の努力もしないで、役員報酬90%を受け取ろうとしている人

たちが含まれてしまうではないか！

福島の人たちも唾然とするほど、善人

だ。

「放射能のおかげで、娘の遺体を捜せな

い」と泣いていたお年寄りがテレビに写っ

ていたが、思わず「おかげ」という言葉を

遣う、その心根の優しさ。普通、「放射能

のせいだ」と言うでしょう？

一時帰宅を許されて、ビニール袋1

枚分の容量しか持ち帰れないというル

ール、関西人なら許さんぞ、コラーツ！

です。それ、自分の家にある、自分の

財産なんです、それらを持ち出すこ

とすらできないのは原発のせい、個人

のせいじゃない。「なんで、お前ら

に、ビニール袋1枚分と言われんとア

カンの本じゃーっ」と関西人ならキレ

る。

でもね、はっきり言うけど、もっと

切れたれつてことです。福島県民が優

しいから、おとなしいから、東電がナ

メ切つて、いまだに補償金のことすら、

きちんと明らかにしていない（100

万円の一時金なんか、焼け石に水でし

よう、家にも帰れず、仕事もできずな

のに）。

それに、どうすんのよ、学校の校庭

の砂（ということ）は、すべての道の、

すべての公園の、すべてのお砂場の、す

べてのプラントの、すべての家の庭

の、すべての家庭菜園の、すべての（）。

そして死んでしまった家畜、これから

出てくるかもしれない、異常に多いか

もしれないガン死。子どもたちの甲状

腺ガン。白血病。どうするつもりなん

だよ、東電。

お前らが、原発をおシヤカにしたく

ないばつかりに即刻、海水を入れなか

った、ケチケチして、これまでに万

全の対策を練つてこなかった、その

営利優先の体質を。私は、刑事罰を

与えるべきだと思う。アメリカだつ

たら、250年は刑務所だぞ、東電

の社長さん。

一般社員も同罪だ。世界中の人た

ちの健康に被害を及ぼしかねない状

態にしておいて（地震対策を万全に

していない、ということ）はさういう

ことでしょうか）、ボーナスが出る

つて、それ、ありか？

しかも、電気代でマイナスを埋め

るだど？ ナメとんのか、東電！

中部電力も中部電力だし、御前崎

の市長も、御前崎の市長だわ。「浜

岡を止めるなら、日本中の原発を止

めろ」つてか。バカか、御前崎の市

長は！（中部電力が菅総理の意見に

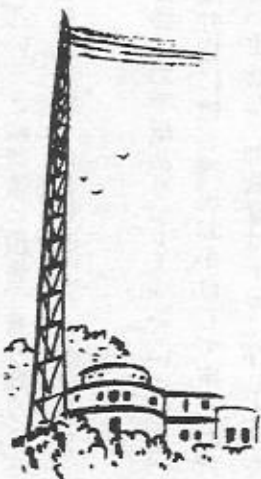
従うと決めてから、違うことを言っ

てたけど、私らが忘れてると思つた

ら、大きな間違いだから。私ら一般

市民だつて聞き耳立ててるし、記憶

力だつて多少はあるのでね）





ま、意地悪く言わせていただければ、そういう見識の低い人を市長に選ぶってことは、御前崎の市民は原発マネーに群がっていたってことね。悲しいね。子どもたちの命より、カネですか？

御前崎の収入の4割は中部電力から出ていて、立派な図書館やら何やらいっぱいハコもあるようだけど、命あつてのモノダネなのに。

あ、ごめんなさい！ 御前崎市民（元浜岡町民）のなかで、原発反対だった人たちまで、カネに目がくらんだ、みたいな書き方をしちゃって。アナタ方は別です。国と国のヒモのような裁判官を相手に、勝ち目のない戦いを繰り広げられたことに敬意を表します。

そして、いつもデタラメな原発絡みの裁判をされてきた、裁判官の皆さん、アナタ方も私に言わせれば犯罪者だからね、枕を高くして寝ちゃいけない。

東日本大震災の前から、私は原発反対だったから、声に大に言わせてもらう。地震の国に原発をつくることは、世界中を危機に陥れること。日本は外圧には、からつきし弱いので、どうか世界中の皆さん、日本に外圧をかけて下さい。「地震国は原発をつくってはいけない」という世界的なルールを一日も早く作って下さい。それしか、日本の原発を止める手立てがないのが、悲しい。

（人間魚雷1号）

・「生活の為だ」という常套句が持つ無責任さ

今回の原発事故を知れば知るほど腹が立つ。これほどバカでのろまで自己中の輩ばかりが日本の政治・経済・学会などの中枢にいるのかと考えると、日本の未来など遠くに霞んで消えてしまいうさだ。

何が頭にくるかと言えば、奴らが確信犯であることである。一人だったら刑事裁判で死刑が間違いないのだが、巨大な組織犯罪であるから検察に捕まることがなく、安穩として居られるのである。数千か数万か知らないが原発推進で関わってきた者たちを一斉に検挙して裁判にかけるべきだとおもうが、検察もそのお仲間だと考えれば、被疑者に有利な偽調査を作って終わりとなるだろう。いくら腹を立てても少しもこの国が改善しそうにないから、どうしたらもう少しまともな国になるのか考えたい。

学校を出て会社に就職すると全く違った価値観の世界になる。学生の時には「世のため人の為に尽くせ」と教えられたが、会社に入ると一変して「会社の為に尽くせ」となる。

会社の正義が全てに優先する雰囲気になってしまふ。会社の正義とは利益を上げることである。会社は利益を

上げることによつて社員や株主に給与や配当が出来、結果として社会貢献が出来るという。こんなことは当たり前のことなのであるが、「会社が利益をあげる」とことと「世のため人の為に」ということは一致しない場合が多い。

最優先は、国や社会のためでもなく会社が儲かるために家族をも犠牲にして命がけで尽くすことである。こんな馬鹿げた論理が社会のすみずみまで浸透してしまっている。この事を人々は疑うことなく「生活のためや」といとも簡単に言うのである。自分の思いや夢や思想を棚にあげて、会社の為なら何でもするというロボットのような行動をするのである。

少し考える人は、その矛盾に悩み苦しめ解決が見えぬまま変人扱いを受ける。組織や地域の中でマトモな意見を言っても同調者はまずいない。会社においては、いかに利益をあげるかに汲々としている訳だから、個々の人間性よりも利益に貢献する人が正義である。たとえ違法な行為があつても、利益が優先するから、おかしな人物であつても社内では評価される。

例えば、業界団体が消費者からの苦情を受け付ける窓口を設けていても、それはあくまで言い訳する為の飾りのようなものであつて、消費者の声を真摯に聞くという姿勢はない。何故かと言う

と、その団体は企業からの資金援助で成り立っているから、企業の都合の悪い事は無視される。

多くの団体は、大きな企業や労働組合、公的なものがほとんどで、運営資金もそれらの機関で賄っているから、個人がいくら言つても聞こうとしない。肩書きがなければ相手にされない。意見の中身よりも所属組織が重要で、組織の大きさ系列でもって識別される。相手にとつて都合の悪い事は、左よりだとか、アカだとか、といった言葉で一蹴されてしまふ。

我々が、今向き合わなければならぬ原発事故においても、個人の意見を言うことを多くの人はためらう。たとえ怖いなあ、と思つても集団の中で「大丈夫だ、原発やめたら停電やで。安全管理はしっかりしてもらわないと困るけど」と上役が言えば、それ以上いえなくなつてしまふ。そして、以後原発は議題にならない。

これまでのように臭いものに蓋をし、議論を戦わすことを避け、長いものには巻かれる、というような安直な生活を続けられれば、末代まで世界の笑いものになる。

今度こそ、原発に関しては国民的な議論を巻き起こし、十八歳以上による国民投票を行い決めるべきだ。

（嘉）

## ・罪深き原発推進派よ

原発というものの正体を知れば知るほど、こんな恐ろしく危険なものはない。日本は、四つのプレートがせめぎあう地震列島だ。そんな地震国につくりにつくった原発、いまや五四基、これでもまだ足りず、一〇〇基までつくる構想だというのだから、正気の沙汰ではない。

原発大国フランスを除くヨーロッパの国々では、二十年以上前から脱原発の傾向にある。あまりに危険で、事故などによる破局が見られるからだ。

チェルノブイリ事故で放射能に汚染された経験も影を落としているのだから、フクシマの震災を見て、さらに脱原発へ進もうとしている。それがふつうの感覚であろう。地震のないヨーロッパにおいてすらそういう認識なのに、地震が多発するこの国だけが、「日本では原発事故は起こりえない。絶対安全だ」と、国民にたいして呪文のように唱え、原発をつくりつづけてきた。ほとんど詐欺といっている。

事ここにいたつても、原発を維持、あるいは推進を主張する人たちがいる。経済界に根強い意見だ。原発を止めれば深刻な電気不足に陥り、生活に大きな支障が出る。高層マンションではエレベーターが止まり、ちよつとした

買物に出るにも階段で上り下りしなければならぬ。水道の水は火力に切りかえれば発電コストが跳ね上がり、月八千円の電気代が一万二千元にもなる。そして温室効果ガスのCO2を出すことになる。電力不足による経済的な損失ははかりしれない。などなど、不安をおおるやり方で、原発の必要性を説くわけである。

だけど、眉につばをつけて聞いておくのがいい。それは誇大であつたり、数字のごまかしであつたり、虚偽であつたりする。

電力会社はいままで、学者や文化人を動員して安全神話をつくりあげてきた。批判的なメディアにはスポンサーとして圧力をかけて、原発批判を封じ込めた。小学校、中学校の教育現場では「エネルギー・環境教育」という名の授業で、原発は環境にやさしく、安全ですばらしいという神話を、児童に植えつけてきたのだ。

「絶対安全」といつてきた手前、事故や都合の悪いことが起こると、隠蔽し、虚偽の報告を繰り返す。そして、けっきよくは誰も責任はとらない。こうしてみると、これはいつか来た道だ。行きつくところは破滅ということになる。

国策として進める原子力は絶対善である。日本で事故は起るはずがないし、

これほどクリーンなエネルギーはない。したがって批判はもろろん疑義を差しはさむ余地などまったくないのである。国民一丸となって原子力を推進しなければならぬ。原子力はわれわれの未来を明るく照らしてくれる希望の光である。こんなすばらしい原子力による発電所を、電力会社は日本全国の風光明媚な海岸沿いにつぎつぎに建設してくれている。国策であるから、国は莫大なお金を原子力のために注ぎ込んできた。東大や京大などの優秀な学者は専門的立場から原子力の安全性にお墨付きを与えてきた。文化人、芸能人たちは原発を賛美する。マスメディアは、国や電力会社や学者たちの発表をそのまま報道すればいいのだ。

まるで戦前の大政翼賛会そのものである。軍部が独走して、満州事変から日中全面戦争、さらにたがが外れたように日本は一丸となってアジア全体に膨張してゆき、太平洋戦争へと突入してゆく。最後は、絶対勝つはずの大日本帝国があまりにも多くの犠牲をともなつて悲惨な敗戦を迎えるのである。

原発推進の過程を、戦前の軍部が中心となつて日本が突き進んでいった破滅への道と重ねて見る人がいる。小中学校のエネルギー・環境教育が、戦前、戦中の皇民化教育と酷似していると指摘する人もいる。

昭和の歴史、とくに戦前の軍部にくわしい作家の半藤一利が、文春かどこの週刊誌に書いていた。軍部はさまざまな局面で判断を誤るのだが、失敗を素直に認めることはけつしてない。そこには底なしの無責任さがある。そして、起きてほしくないことは、起きないだろうと思ひ込んでしまう。先の大戦でも、ソ連は絶対参戦しないと思ひ込んでいた。それが日本人の属性だということを書いているが、原発を推進してきたヤツらもまったく同じではないか。

安全だ、安全だといつてきた原発である。地震で壊れるはずがない。壊れてほしくないものは壊れない。でも壊れてしまった。だから、後は知らない、ではすまされない。

今回の原発事故のは人災である。責任の所在をはつきりして、落とし前をきつちりりとつてもらおう。

電力会社も官僚も学者も文化人もメディアも、原発はクリーンで安全だと宣伝してきたものたちよ、想定があまかつたとか、思慮不足だったという言い訳は通らない。福島へ行つて、クリーンで安全なはずの原発がどうなつて、どういふ事態を引き起こしているのか、目の当たりにせよ。福島の人たちの声をその耳で直接聞け。放射能をたつぷり浴び、汚染された魚や野菜を食べたうえで、もう一度原発について言葉を発せよ。(猿)



土田 裕

下村さんから私の海外経験について書いてみたらとお誘いを受けました。私は昨年、古希を迎えましたがかねて自分の過去について何か書いてみたいと漠然と考えていましたので、つたない文章ながらトライしてみることにしました。

ドイツ、米国、オーストラリアと三度の海外転勤を経験しましたが、最初の転勤からすでに四十年以上経って記憶も薄れてきており、事実と少し異なる点もあるかも知れませんがご容赦ください。

着任

一九七〇年（昭和四五年）一二月、日、早朝六時、私は西ドイツのハンブルグ空港に降り立った。三井物産大阪支店からドイツ物産ハンブルグ支店への転勤であった。この年は春から大阪万博が行われ、大成功に終わったが十一月には三島由紀夫が突然割腹自殺した年であった。

冬の北ドイツの夜明けは遅く、外は真っ暗でその上、雪が激しく降っていた。私は当時、二九歳で長女がまだ母親の胎内におり、翌年一月に誕生の予定だったので、とりあえずは単身赴任

であった。空港には前任者が迎えにくてくれ、彼の車で市内のホテル、デーンツィシャーホフ（ドイツ語でデンマークの宿の意）に入った。

日本との時差八時間の影響で、殆ど眠れないまま一夜を過ごし、翌朝ホテルの食堂で朝食を注文した。赴任の一年前には当時の上司の計らいで大阪支店からヨーロッパ各国へ出張し経験済みであったが、ドイツの朝食は誠にシンプルで丸いパン、薄切りのサラミソーセージ、珈琲のセット（コンチネンタル朝食）であった。ホテルはハンブルグ中央駅やアルスター湖に近く、出勤まで時間があるのでアルスター湖の辺を散歩してみた。

アルスター湖は街の中心にあり外アルスターと内アルスターに分かれるが大きい方の外アルスターが人造湖だと聞いていた。回りには高級住宅やホテルが立ち並び、日本領事館もその中にあった。真冬なので岸に近い湖面は凍っていてその上に雪が積もり寒々とした景色が広がっていた。商社に入ったからにはいつかは海外勤務をしたいと考えていたが、気温が零下五、六度ということもあって今日からの海外生活への期待と不安で身震いがしたことを覚えていく。

単身生活

当時のドイツ物産ハンブルグ支店は

経理総務課と繊維、食品、物資の三つの営業課から成りそれぞれに邦人が二―四名、現地職員が四、五名いた。

私が所属していたのは物資課で、営業課の中では一番小さく邦人は私より一回り年上の課長と私だけであった。繊維課は関係会社を持つていた関係で一番大きく、邦人が四名おり、支店長も繊維部門出身であった。

さて当時の社内規程で、着任後六ヶ月経たないと家族を呼び寄せできないことになっており、私もその間、一人暮らしのドイツ人のおばあさん宅に下宿した。一般のドイツ人の生活は質素で節約精神が徹底している。

下宿はアパートの一室で廊下の電気はスイッチを押すと三〇秒だけ点灯するシステムになっており、おばあさんの部屋は二階なので急いであがらないと途中で電気が消えてしまう。夜遅く帰宅して風呂に入ろうとしてもボイラーの容量が小さいのでバスタブのお湯が溜まるまで小一時間かかり、その間じっと待たなければならなかった。またベッドに入ってから本を読んでも一〇時を過ぎるとおばあさんが「電気代がかかるので早く寝なさい」と言ってくる始末であった。

六月になって漸く家族呼び寄せが可能になったので総務課長のところに行くくと、繊維の課長が帰任した後の社宅

に入ってもらおう予定であったが奥さんが妊娠しており、出産してから帰国することになった。ついては後三ヶ月我慢して欲しいという。後で聞いた話だが、くだんの課長はドイツ大好き人間、ドイツ語はべらべらで、出来れば子供にはドイツ国籍をとらせたいと考えていた由。ドイツで生まれた子には出生届に国籍留保の条件をつけておけば成人になった時にドイツ国籍を取得できることを知っていたせいで、帰国を延ばしたということであった。

社宅

一九七一年九月になって漸く女房と長女（生後九カ月）が合流しアルスター湖にも近いハイムフーダー通りの社宅（借家）に住む事になった。3階建てのアパートの三階のLDKで標準的なドイツのアパートと比べればかなり狭かったが、私はハンブルグ店の邦人のなかでは最年少であったので贅沢もいえず、またそれまでの下宿生活に比べれば恵まれており、やっと落ち着いて仕事ができる環境が整った。

社宅についてはその後、郊外の新築アパートに移ったが、北へ向かうアウトバーンの起点近くに建っている関係で、入居当初は終夜、大型トラックの騒音に悩まされる羽目となった。商社の海外店長には大幅な権限が与えられており、社宅についても店長によって方針が変わることもしばしばで、私が仕えた最初の店長は質素、節約型で町なかにある比較的小さなマンション

に住んでおられたので、部下である課長やわれわれはそれより広い家に住むことを避ける雰囲気があった。

ところが二年経って店長が代わったとたんに、郊外のプランケネーゼという高級住宅街の庭付き一戸建てに移られ、その後の転勤者は同じように一戸建てに住むようになった。もちろん家賃のうち住宅手当を越える分は個人負担なので大きな家に住めば、負担も大きいですが、せつかくの海外生活なので当時の日本の月収ではとても無理な庭付き邸宅に住む人が多かった。

### 携帯エッセイ 31

還暦を境に同窓会が増えた。

四月に高校三年の同窓会があった。数年前から案内は貰っていた。しかし、行く気がしなかった。

『過去は振り返らずに今を生きること』に全力投球すべき』と思っていた。

それと、同窓生の中に会いたくない女性がいた。二十五歳の時、その女性に結婚を申し込んで振られた。『今更、何を話せばいいんだろう』と気後れしていた。

ところが、今回は出席しなければいけない事情があった。開催地をいつも大阪ではなく私の住んでいる神戸にするという。

『きつと幹事が神戸在住の者に参加し易いように気を配ってくれたのだろう。欠席すると義理を欠く』と思った。

出席者は八人だった。色々な人がいた。退職して今は主夫をしている者。銀行の監査役。事務機メーカーを定年退職した者。旅行代理店の経営者。農家の主婦など。

聞いた消息も色々だった。恩師は亡くなっていった。同窓生のふたりが物故者になっていた。勤務地のニューヨークで行方不明になった者が一人いた。『物見の塔』の信者になつて布教活動に専念している女性もいた。

「へえ、才色兼備だったのにねえ」と呟いてしまった。

二次会は喫茶店だった。私がスナックに誘ってみたが誰も反応しなかった。

『毎晩、飲み歩いていて俺とはあまりに生き方が違うなあ』と驚いた。

それでも出席して良かった。色々な発見があった。

ところで、私が振られた女性は出席しなかった。ほっとした。反面残念でもあった。

同窓会名簿では横浜に住んでいた。後日、訪ねてみた。といってもグーグルアースである。便利なものだ。住所を入力するとパソコンが彼女の家まで誘導してく

れる。画面上に写し出された彼女の家はそこそこの一戸建てだった。経済的な苦勞はなくそこそこ幸せなのだろう、安堵した。

《龍》

### 寄付金集め

明石幸次郎ジュニア

(デュセルドルフ在住)

混乱の日々が続いている。自分という存在は災害に対していかに無力なんだろう。

それは物理的な意味での小ささや、頭の中にある小煩惱の事だったり。

ネットやメディアでは情報が氾濫している。ドイツの報道、日本の報道、

各国のジャーナリスト。ネットの情報。どれを見ても何を信じていいのかかわらないし、怖いし、政府には腹立つわ、

原発反対で騒いでるドイツ人に腹立つわ(天災をおまえら、その直後自国のために政治利用すんなポケ!)。

もやもやがずっと消えずに、この何日間か頭の中をぐるぐるしていた。ネットやテレビのような空虚な媒体ではなく、何かソリッドで現実的な感覚が欲しかった、もつとこの問題に対して

社会とコミットできているというよう

な。

でも海外にいる今どうすればそれができるのかわからずに過ごしていた。

なにより問題提議するには自分は無知で無力すぎる。現地に行く事もできない。アーティストのように自分の絵を

売ってチャリティーにまわす事もでき

ない。

そこで思いついたのが、路上に立つことだった。日の丸の募金箱をつくり、日の丸を掲げて、義援金を路上で募った。

地震が起こった時はベルリンにいたのだけど、この街での日本人の若者のリアクションの早さ、結束力、良い意味でのいいかげんさ、コンセプトのなさ。そういったチャリティーイベントがよい影響を与えてくれた。

コンセプトなんかなくても皆が主体的にあつまり、自主的に動けば大きなパワーになる。細かい事なんて後でどうでもなるんだよ。

ベルリンはそんな空気に満ち満ちていた。まるで1968年みたいだ。

デュセルドルフでの募金だけど、3時から7時までの4時間で400ユーロ集まった。ダンサーの友達が応援

に来てくれて2人でやったけど、天気もよくて、羽振りの良いデュッセル人のおかげで、短時間で効率よくお金が

集まった。スタートとしては悪くないと思う。

僕たちが通り過ぎても追っかけて来て財布を出し、「がんばってね」と2





0ユーロを差し出すマダム。  
一度通り過ぎたけど、お母さんにお金をもらって、「日本のひとびとへ」といって5ユーロ札をいれてくれた女の子。

「日本の政治家は恐怖がなかったからあんなに原発をつくったんだと思う。外交やあらゆる政策においては、まず恐怖が一番大切だ」と言ってコインを入れたお父さん。その人の子供は4歳くらいでとても可愛い女の子なのだけども、「そう。ママもAngst(恐怖)が大切って言うの。だってAngstがなかったら高い屋根に登って落っこちちゃうでしょ？」と言っていた。

無言でさっと10ユーロを入れていった中国人の三人組。

「日本は何度も旅行で行っていて大好きな国だから、今回の事は本当に気の毒だよ」と涙目で20ユーロを入れてくれるお父さん。

「トルコからの援助だぜ！」と2ユーロ入れていったトルコ人。(ケバフの値段と同じだ)

日本の事などあまり知らなさそうな10代の女の子たちも財布をあけてみんないんをに入れてくれた。

予想外の展開である。みんなありがとう！

なによりこの天国のようなドイツの太陽に感謝。

生きものすべてに宿る仏

……階段から落ちて大けがをされたそうですが、後遺症は如何ですか？

「おかげさまで、不思議にも元気になりました。担当医が、階段から落ちて救急者で運ばれてくる高齢者は、死ぬか寝たきりになることが多いが、あなたは何も後遺症がのこらず快癒した、と感心していました。仏が、私にまだ仕事が残っていると告げているのでしょうか」

……それはよかったです。教えていただきたい事がいっぱいありますので。

前回、日蓮と次郎長と宮沢賢治の三人を偉大な法華經行者として取りあげられましたが、法華經の根本の教えは何ですか？

「釈迦がほんとうに説きたかった法が法華經です。この法は、生けるもの全てに仏が宿っていて、すべての人は仏になれる。すなわち成仏するための道筋を説いた教えです」

……悟りと成仏するのは違うのですか

「悟りとは、周りの生きものに仏が宿っていることを自覚し、それらの仏と自分に宿っている仏が一体化するように感じることでです。その意識を実践するのが成仏なのです。一度悟ればその状態がずっと続くと言うものではありません。その時だけの一瞬のものである。ですから、毎日の修行が必要になるわけです」

……厳しい修行を死ぬまで続けなければ成仏は出来ないのですか？

「出来ない。すべての教えの根本には親孝行の教えがあります。親の恩は計りがたくと尊いもので、子はその恩に少しでも報いるために、孝行を摘まなければならぬ。同じように周りの人々に対しても、孝行をしなければならぬ。花を見ても、仏が宿っていることを自覚し、嫌な人にも同じように仏が宿っていることを感じなければならぬ。上下関係で見るとはなく、すべての人に、すべての生きものに仏が宿っているということ、その真理を覚らなければならぬ。生きとし生けるものすべてを、対等な立場で見るとです」

……なんだかむずかしい。何かひとつ奥義というか、秘伝みたいなことを教えてもらえませんか

「それでは、あの世に行くときの要諦を教えます。臨終を迎え三途の川の川岸に行きますと、多くの出迎いの船が並んでいますが、それらの船に乗ってはいけません。題目「南無妙法蓮華經」と唱え、迎いの船が来ますから、その船に乗る。そして川を渡って行くと、沢山の道が分岐していますから、よくよく注意すること。六本の道が見えますが、明るく輝いて

いる道は行ってはいけません。先が行き止まりになっていくからです。六本の道の中で、暗い広い道をさがして進むこと。

その道をたどっていくと、座敷のような部屋へ着きます。きらびやかな六枚の座布団が敷かれています。その布団に坐ってはいけません。さらに奥へ進むと、四枚の座布団が敷かれた部屋がありますので、そのふとんに坐ること。

すると、使いの者が来て、だれか、お知り合いの坊さんはいませんか、と聞いてきますから、私の名前、稲垣妙淳と答えてください。決して間違っていないけません。そうすれば、使いの人が、一番いい席に案内してくれるはず

もしそうしなければ、閻魔さまの前に出て、娑婆世界の行いの審判を受けなければなりません。大変ツライことです。しかし、私の名前を言えば、その審判を受けることがパスでき、すぐに快樂・極樂の花が咲きほこり、優美な管弦の音色がきこえる楽園に行くことが出来ます」

……忘れないようにしないといけませんね。

「しつかり、頭に入れておきなさい」……大変なことを教えていただき有り難うございました。(嘉)

震災と人の絆

戦後最大の被害をもたらした東日本巨大地震が起きました。阪神大震災の時と同様、人は自然災害に対して無力なんだ、ということを変更して感じさせられました。

多くの方々が亡くなり、大きな被害が出たことは本当に残念ですが、日本人ひとりひとりの間に「今こそ、助け合わなければならぬ」という機運が高まったことも確かです。

こうした気持ちで大事にして、日本中が支え合っているように思っています。

家族、地域、人と人とのつながりをどのように築いていくのか、みんな考えていく必要があります。「芥川だより」が読んで下さる皆さんとつながるきっかけをつくる存在であってほしいと思う。ひと工夫を加えたり、視点を変えたりして、芥川での存在意義を高めていきたいと思う。

「すきま風」

人を愛して 人は心をひらき  
傷ついて すきま風 知るだろう  
いいさそれでも 生きてさえいれ  
ば

いつかやさしさに めぐりあえる  
その朝 おまえは 小鳥のように  
胸にだかれて 眠ればいい

夢を追いかけて 夢に心とられ

つまづいてすきま風 見るだろう

いいさそれでも 生きてさえいれば

いつかほほえみに めぐりあえる

その朝おまえは 野菊のように

道のほとりに 咲いたらいい

杉良太郎さんの歌う「すきま風」、淋しいタイトルです。震災で何もかも失くなった人達。

この歌が身に染みるわけです。それと関係があるかどうか分からないが、心にすきま風が吹くと、この曲をふと思い出すんです。

「青空、ひとりきり」

自分のことは、自分でほめる。人に感謝など乞はない。その主義でいけば、全くこわいものなし、気持ちがらくになった。

○ 私達の気持ちを踏みにじった

○ 見下げられた。

○ 馬鹿にしている。

と三つの意識を持ち続けて暮らして来た。

これでは、これからの人生は全くつまらない。結論を出さずに、少し距離を置いて考えてみた。

そうだ「逃げるより攻める」と聞き直つたら、自然と笑顔になり、「ありがとう」「すいません」と言われなくても、心から、ヨシッ、まだまだと、チャレンジ精神が頭をもち上げてくる。

楽しいことなら なんでもやりた  
い

笑える場所なら どこへでもゆく

心ない人とは 会いたくもない

涙の言葉で めれたくはない

青空 あの日の青空 ひとりきり

何かをたいせつにしていたけれど  
身体でもないし 心でもない

きらめくような 想い出でもない

ましては我が身の 明日でもない

浮き雲、ぼつかり 浮き雲、ひとり  
きり

「井上陽水作詞・作曲」

俳句

土田 裕

○紫陽花やどの色となく雨雫

○梅雨めきぬ門灯いまだつきしまま

○たなごころ合わせて囲ふ螢かな

○臭ふとてトマト嫌ひの母なりき

○更衣職引きし身の軽きかな

編集後記

原発反対運動が六〇年安保闘争の時のような盛り上がりを見せたいのはなぜなのだろうか。募金活動やボランティアはさかんにおこなわれているが、原発反対運動は広がりを見せていない。自民党が進めてきた原発推進が民主党になっても同じようにおこなわれている。

我々は、長年にわたり洗脳されてきた思い込みから、勇気を出して飛び出し、自分流に考えて行動しないと、福島の人にはやりきれない。新聞やテレビは半分も真実を伝えていない、と肝に銘じて。(嘉)

『人気のデザイン』

10



定番の人気デザイン  
作務衣  
衿に八掛をポイントに  
着物から服を仕立てます

荒~ぼん~